





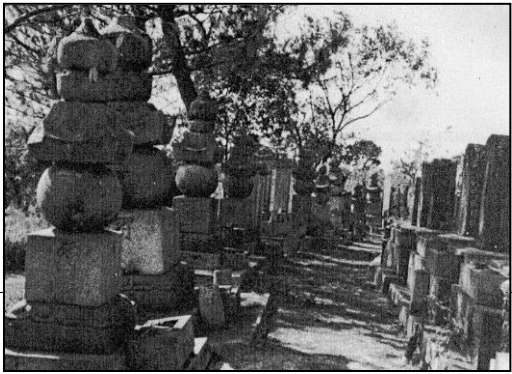


	深井宗家(北本市 寿命院)	大河内家・家臣(新座市 平林寺)	藤堂家・家臣(三重県 津市 天然時)	高崎藩・家臣(高崎市恵徳寺・光明寺他)
 <p>●長尾左衛門尉伊玄入道景春 北条早雲と並び関東における下克上の雄の一人。長尾景春の乱は、文明 8 年(1476 年)から文明 12 年(1480 年)にかけて起こった関東管領上杉氏の有力家臣長尾景春による反乱。太田道灌によって鎮圧された。上州白井空恵寺石碑 領土十八万石余 永正 11(1514).8.24 長尾景春卒</p>	<p>●長尾景行 (長尾景春次男) 上杉憲政領地、武州鴻巣辺に居住する。その後、上杉謙信に仕え、功をなす。後、越中国小出城主「元龜 2(1571)」</p>	<div data-bbox="1216 262 2226 682" style="border: 2px solid black; border-radius: 20px; padding: 10px;"> <p>華麗なる一族 (深井氏・大河内氏縁戚)</p> <p>1.土着して中山道鴻巣宿の草分名主となった一派</p> <p>1.藤堂家に仕え藤堂姓を許され家老職をつとめた一派(好秀の次男)</p> <p>1.松平忠吉(徳川家康四男)に仕えた一派(好秀の弟)</p> <p>1.松平伊豆守家に仕えて家老職をつとめた一派(好秀の次男の子)</p> <p>1.高崎藩(松平信綱の五男・信興を祖とする)に仕えて家老職をつとめた一派(好秀の四女の子)</p> <p>1.石戸藩主、牧野氏の家臣(竹内氏)となった一派(好秀の二・三女の子?)</p> </div>		
<p>天文 2(1533).4.3 深井景孝卒</p>	<p>●深井六郎次郎景孝 (長尾景行嫡男) 鴻巣下谷堤にて討死二十二歳。深井村にて出生。地名をとり、深井六郎次郎景孝改名。</p>	<div data-bbox="1409 766 2181 1060" style="border: 2px solid black; border-radius: 20px; padding: 10px;"> <p>大河内氏の祖は源頼政で、孫の顯綱(あきつな)が三河国額田郡大河内に移り住み、土地の名を称したのが始まりとされる。江戸期には大名三家・分家の旗本七家があった。平林寺にある久綱の墓は、昭和に入って大河内正敏と合葬されている。正敏は、戦前の理研(理化学研究所)財閥の総帥、「科学者の樂園」をつくった男とも称される理化学研究所の三代目所長。</p> </div>		
<p>慶長 16(1611).2.11 深井景吉卒</p>	<p>●深井対馬守景吉(景孝嫡男) 鴻巣七騎の一人。鴻巣郷深井庄堀之内にて出生。神君(徳川家康)関東入国のおり、景吉拜謁を賜わり、出自から在地土豪としての存在を認められる。後北条氏滅亡後、忍城主になった松平忠吉(家康の四男)に仕える。</p>			
<p>慶長 9(1604).11.26 深井好秀卒</p> 	<p>●深井藤右衛門好秀(景吉嫡男) 深井藤右衛門は、最初は太田氏資の偏諱を賜わり、資正を名乗ったが、後に好秀と改名している。永禄十(1589)年に、氏資が里見氏との戦いで戦死した後は、北条氏房の配下にあった。天正十一(1589)年頃には、粕壁の代官職を勤めている。好秀は、家康に拜謁したが出仕はせず、隠棲後、鴻巣市宿村にて病没している。 好秀には、三男四女があった。長女(龍泉院)は大河内久綱に嫁ぐ。</p>			
 <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 5px;"> <div style="text-align: center;">↑ 好秀</div> <div style="text-align: center;">↑ 景吉</div> <div style="text-align: center;">↑ 景孝</div> </div>	<p>●大河内秀綱 家康に仕え三河、遠江の租税に関わる。家康の関東移封に従い、武蔵国高麗郡で 700 石余を領し、代官として活躍する。 元和 4(1618).9.13 大河内秀綱卒</p>	<div data-bbox="1246 1281 1632 1543" style="border: 2px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; text-align: center;"> <p>知恵伊豆の誕生!</p> </div> <div data-bbox="1113 1564 1706 1816" style="display: flex; align-items: center;">   </div>		
<p>寛永 18(1641).4.7</p>	<p>●深井勘右衛門正家(景吉五男) 嫡男好秀早死にて五男正家が宗家を継ぎ鴻巣宮地住む。権現様(家康)に拜謁</p>	<p>●初代 藤堂吉親 (深井好秀次男) 16 歳にして単身、伏見に藤堂高虎を訪ね、仕える。資才あり、秩禄を重ね三千石、藤堂姓を賜わる。大坂夏役の後四千石。後に、大坂城修築総奉行、江戸城西の丸修築を督役し、家光に拜謁し時服、白銀を賜わる。高虎公から高次公に至る間、江戸家老となる。高虎公の死に添い殉死の意向を示すも、時の幕府の土井、酒井、阿部、松平伊豆守諸侯、並びに天海僧正らに軽拳すべからずと説得され慟哭するも従う。因みに、松平伊豆守は姉の子。以降、嫡男は代々家老で幕末を迎える 寛永 16(1639).3.19 藤堂(深井)吉親 主膳卒</p>		
		<p>●大河内久綱 (秀綱嫡男) 三河生まれ、慶長15年家康に仕える。伊奈忠次配下の代官。深井好秀の長女(龍泉院)と結婚。その嫡子が松平大河内信綱。 正保 3(1646).4.3 大河内久綱卒</p>		
		<p>●大河内松平信綱 (久綱嫡男) 武蔵国伊奈小室陣屋</p>		

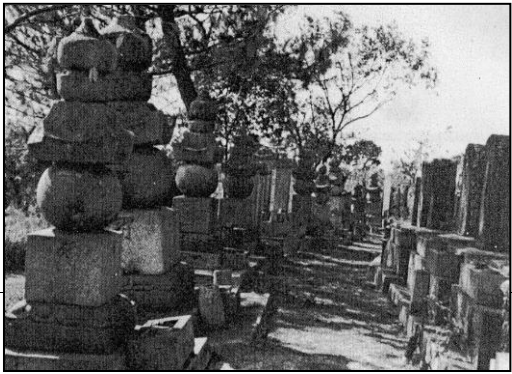
★藤堂姓緒家等家譜集より抜粋
初代吉親 寛永 16.3.19 卒 4,000 石(定家)

		生(伝)まれ、父の弟、松平正綱の養子、後徳川家光の小姓。忍・川越藩主大名 幕府老中首座 島原乱平定 etc 正保 3(1646).43 大河内松平信綱卒 平林寺		
		●初代 深井吉成 (吉親次男) 松平信綱から藤堂家に打診があり、寛永十六年より松平家に出仕。寛永二十年、千石で奏者番となり、後に千五百石となる。慶安五年・26歳、川越藩家老職に就く。 貞享 5年、62歳で亡くなり平林寺に埋葬される。深井家が藩主の親族として待遇されていることがわかる。伊豆守家に仕えた子孫は、主家に従って三河吉田に移る。 貞享 5(1688).9.7 深井吉成卒		
元禄 6(1693).10.16 深井景之卒	●深井勘助景之 (正家嫡男)			
		初代吉成 慶安 4(1652)家老 二代良谷 元禄元(1688)用人 三代久敬 元文 2(1737)小姓頭 四代安敬 安永 8(1779)城代 五代資貞 寛政 2(1790)中老 六代資敬 文化 6(1809)家老 七代静馬 文久 2(1862)家老		
				●初代 深井資成 (好秀四女の子) 好秀の四女が金井隆治資成に嫁ぎ資成が生まれるも隆治死後、深井姓に戻す。 高崎藩主、松平信興(信綱五男)に仕え家老職を勤める。元禄 4 年の家臣分限帳に七百石と記載されている。以降、子孫は高崎藩に仕えている。 正徳元(1711).6.4 深井資成卒
正徳 5(1715).6.11 深井景治卒	●深井勘右衛門景治 (景之嫡男)		↓	?
享保 19(1734).4.19 深井景平卒	●深井勘助景平 (景治嫡男) 吉宗公御代享保6年鴻巣近郷の御鷹場域野回役奉勤する。		↓	
宝暦 11(1761).11.19 深井景珍卒	●深井勘右衛門景珍 (景平嫡男) 家重公御代享保6年鴻巣近郷の御鷹場域野回役奉勤、人望有。			
天明 8(1788).4.22 深井景友卒	●深井勘助景友 (景珍養嫡) 鴻巣近郷の御鷹場域野回役奉勤及び当宿名主。			
天保 3(1832).6.3 深井景周卒。	●深井勘右衛門景周(無敵斎号) 片岡孫兵衛と称し三州長草村の出身。起倒流拳法を学び四方に周遊し深井家に立ち寄る。 その時、深井景友四十一歳にて卒、母子共に外戚にあることを知らされ、深井家を継ぐことを進められる。剣師に相談の結果、母子ともに呼び寄せ、寛政十年四月晦日深井家に入る。 39歳の時であり、名を深井勘右衛門景周と改める。 人望有。その後、新田源道純公は、雷名を聞き使者を迎える。技を披露し家臣衆の指南役となる。無敵先生と呼ばれ、従者三千余人。			
天保 9(1838).10.30 深井景寿卒	●深井勘助景寿 (景友嫡男) 継父に学んだ、起倒流を誠実に教え人望有。鴻巣衆民老吏。			
明治 24(1891).6.6 深井成富卒	●深井勘右衛門成富 (景寿嫡男) 御鷹場域野回役奉勤。			
明治 4(1871).5.12 深井景邦卒	●深井勘助景邦 (成富嫡男) 十三歳で江戸に出て漢籍を学び、後に剣術神道無念流 二十歳卒			
大正 10(1921).8.17 卒	●深井勘右衛門信歡 (成富嗣子)			

初代吉成 慶安 4(1652)家老
二代良谷 元禄元(1688)用人
三代久敬 元文 2(1737)小姓頭
四代安敬 安永 8(1779)城代
五代資貞 寛政 2(1790)中老
六代資敬 文化 6(1809)家老
七代静馬 文久 2(1862)家老



平林寺 深井吉成家墓所



津 天然寺 藤堂主膳家墓所

参考 深井 英五 昭和 20.10.21卒
高崎藩士の流れをくむ人物に第
十三代日銀総裁深井英五がいる。
日本の銀行家・経済学者・貴族院議
員。群馬県高崎市出身。歴代日銀総
裁でもっとも経済理論に精通し、金
融恐慌時は副総裁として井上準之
助をサポートした。ぎりぎりのところ
で日本経済を救った立役者として
知られている

★深井正昭家文書(渋川市伊香保)
由緒や系図によれば「長尾氏一族
で、武蔵国鴻巣に住んでいた。深井三
太左衛門正真の時、松平信興(天桂院)
に士官し、信興死後はその養子松平輝
貞に仕え 350 石まで昇進した。
次の正武の時、主家とともに高崎に移
り住み、以降高崎藩松平(大河内)家家
臣として明治期を迎えた」とされる。



渋川市有墓地 深井正昭家墓碑